

平成27年度 山口県立萩商工高等学校 学校評価書

<教育目標>	○各学科が専門分野を生かした系統的な学習を充実し、各分野のスペシャリストとして必要な知識技術を習得させる。 ○未来の社会を主体的に力強く生き抜く人材を育てるため、豊かな人間性を育むとともに、生徒一人ひとりの個性を生かして、その能力を十分に伸ばすキャリア教育を行う。
<めざす学校像>	①商業学科と工業学科の特色を生かした専門教育の推進と学校行事、部活動を通じて生徒 が生き生きと活動する学校 ②キャリア教育の充実による生徒の多様な進路実現を図る学校 ③地域の産業や伝統文化に学び、地域に信頼され、地域に貢献する学校
<育てたい生徒像>	①心身ともに健康で高い志を持ち、社会から信頼され、チャレンジ精神を持った生徒 ②各学科の専門性と連携を生かし、将来のスペシャリストをめざして知識と技術を習得し た生徒 ③ふるさとを愛し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身に付けた生徒

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
①親師会活動については、開催日を調整するなど参加率の向上に向けた改善を図ることができた。今後は、内容の検討を図ると共に、メール等を使った情報発信にも力を入れ、親師会活動の更なる活性化を図っていききたい。	
②朝読書の実践により、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいる。	
③定期考査前の成績不振者への特別指導などを含め、学校全体で基礎学力定着に向けた取組ができています。学校アンケートの結果から「家庭での学習習慣の確立」については課題も多く、保護者と連携した取組が必要である。	
④検定・資格への対策については、授業以外でも補講等を積極的に実施して対応している。補講指導については、学校全体の協力体制のもと、計画性を持って取り組むことが重要である。	
⑤比較的落ち着いた態度で学校生活を送っているが、服装、髪等の乱れが気になる生徒がいる。指導されれば素直に従うが、更なる規範意識の醸成を図る必要を感じる。自転車マナーについては、改善が見られるが、「ながらスマホ」については、安全教育の観点からも徹底した指導が必要である。	
⑥いじめ防止対策については、関係団体と連携して取り組んでいる。学校がいじめ防止に向けた具体的取組を保護者へ情報発信することが重要と考える。	
⑦生徒会役員を中心として多くの地域貢献活動を行っている。また、運動部の大会応援に多くの生徒が参加するなど、学校全体の雰囲気も非常によいと感じる。なお、応援の行程等については今後検討の余地あり。	
⑧キャリア教育年間計画にそってガイダンス、進路講話、インターンシップ等を実施した。1年次におけるインターンシップについては、商業科と工業科が連携を図りながら実施できるよう検討が必要である。	
⑨保健室を中心として、生徒、教職員の健康指導を実施している。インフルエンザ等の感染症にも迅速に対応できている。なお、教職員の定期健康診断で再検査の受診率が低い点については改善する必要がある。	
⑩環境美化活動は生徒会、JRC等を中心に校外で活発に進められている。また、掃除のスムーズな取りかかりについても改善が見られる。	
⑪HP、メーリングリスト等を通して、学校の情報を効果的に発信している。メーリングリスト登録については、登録率100%を目指し、普及させていきたい。	
⑫業務改善では、業務の平準化を図り、教職員の多忙感の解消を進めていきたい。また、部活動指導については、積極的に休養日を設定するなど生徒も教員も生活バランスを考えた活動を推進する必要がある。	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<平成27年度チャレンジ目標>	
①さわやかな挨拶をする ②時間を守る ③身の回りの美化に努める ④目標を持つ	
【学習指導】 ○「わかる授業」の実践を通して、基礎学力の向上を目指すとともに、家庭における学習習慣の定着を図る。 ○互見授業や公開授業など、指導力向上に向けた校内研修の更なる充実を図る。	
【生徒指導】 ○情報モラルの低下による「いじめ問題」や自転車マナーを含む交通安全等について、未然防止を基本とした積極的生徒指導の推進を図る。 ○朝の正門指導や授業・実習等での教科指導を通して、身だしなみや挨拶などタイムリーな指導の徹底を図る。	
【特別活動】 ○望ましい運動部活動の実現に向け、顧問会議や研修会等を開催するなど、学校全体での組織的な取組を推進する。 ○地域貢献活動や各種ボランティア活動等に積極的に参加し、「豊かな心」を育むための実践活動の充実を図る。	
【進路指導】 ○キャリアガイダンスの充実を図り、生徒の主体的な進路選択・決定のための能力を育成する。 ○早い段階での職業観・勤労観の育成に向け、商業科・工業科が連携し、インターンシップの実施時期や受入事業所等について再検討を行う。	
【保健体育】 ○保護者・部活動顧問とも連携し、健康診断後の受診率向上を図るなど、生涯にわたって健康・安全な生活ができる能力を育成する。	
【業務改善】 ○多忙感解消のための業務の平準化を推進するとともに、組織力アップのためのOJTや校内研修等の更なる充実を図る。	

4 自己評価				5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
総務	1 学校行事の適切な計画、調整、運営	・行事の計画・運営に際し、関係者との調整を図り、事前の準備を徹底させる。 また事後、改善へ向けて検討を行う。	4: 事前の準備と事後の改善が十分にでき、適切な行事運営ができた。 3: 事前の準備と事後の改善ができ、ほぼ適切な行事運営ができた。 2: 事前の準備と事後の改善はできなかったが、行事運営はできた。 1: 事前の準備、事後の改善、行事運営ともに適切でなかった。	3	○年度初めの行事・学期末の行事等については、関係者と事前調整を行いほぼ適切な運営ができた。 ○創立10周年記念行事についても親師会の協力を得て無事に終えることができた。
	2 親師会活動の活性化	・総会及び親師会諸行事の参加率を高めるために、案内状やメール等によって情報を発信し、様々な機会を捉えて保護者に働きかける。	4: 親師会行事へのべ七割以上の参加をいただいた。 3: 親師会行事へのべ五割以上の参加をいただいた。 2: 親師会行事へのべ三割以上の参加をいただいた。 1: 親師会行事への参加がのべ三割未満であった。	2	○総会出席者130名、同報告会16名、球技大会70名(球技大会は教職員を含む)の参加があった。教育講演会については正確な人数は把握していないが、例年より多くの参加があった。教育講演会等メールでの情報発信を行ったが、内容やメーリングリスト登録率の向上等の課題がある。
教務	基礎学力の定着と学習意欲の向上	・朝読書の継続により、読書習慣の定着をはかる。また、資格や検定の合格者を増やす。	①朝読書で読んだ本の冊数を前年と比較 ②検定や資格試験の受験者数・合格率を近年と比較 4: ①、②ともに良好。 3: ①、②のどちらかが良好。 2: ①、②とも例年程度。 1: ①、②ともに不十分。	2	○朝読書は毎朝実施しており、習慣の定着が進んでいる。検定・資格取得についても積極的に挑戦する生徒(希望受験者)が多い。検定合格率は例年程度であった。
		・学習習慣の定着の方策を検討・実施する。	①家庭学習時間の調査 ②方策の検討・実施 3: ①、②ともできた 2: ①のみできた 1: どちらもできなかった	2	○昨年度と比較しても1学期末の欠点保有者が19人から7人へ、2学期末も23名から10人と半減している。調査を比較、検討しながら今後も喚起に努めたい。

学校関係者からの意見・要望等	評価
○親師会総会に様々な学校行事を重ねて行うことで、出席率の増加した例もあるが、継続性については難しい問題である。 ○保護者へ積極的に案内していくことが重要であり、その為にも、メーリングリストの登録率の向上をお願いしたい。	B
○検定・資格試験について、必要性を認識させ自覚させて欲しい。3ヶ年のスケジュール等を提示するなど、計画的な取組ができるように指導していただきたい。	C

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
生徒指導	1 教育相談活動の充実。	・学期に1回、各クラスのいじめ・被害調査を実施し、該当者がある場合は「いじめ対策委員会」対応策を講じ、組織的に解決を図る。	4:1年間で3回以上実施した。 3:1年間で2回実施した。 2:1年間で1回実施した。 1:実施しなかった。	4	○被害等の調査を、学期に1回実施しているが、1学期にいじめ事案が発覚し早急に対応した。来年度に向け、「いじめ検討委員会」の組織等の再編を構築するとともに様々なケースに対応できる調査方法の工夫が必要である。	○学校内では、服装や態度など守られているが、校外において服装や態度など悪い例もみられる。自転車のマナーも併せて生徒指導により一層力を入れて欲しい。
	2 基本的生活習慣の育成と規範意識の向上。	・年5回の服装頭髪検査において、検査の重要性を認識させるとともに再検査の人数を年間通してゼロにする。	4:1年間の服装頭髪検査において再検査不合格生徒が0名だった。 3:1年間の服装頭髪検査において再検査不合格生徒が5名以下だった。 2:1年間の服装頭髪検査において再検査不合格生徒が10名未満だった。 1:1年間の服装頭髪検査において再検査不合格生徒が10名以上だった。	4	○年6回の服装頭髪検査を実施し、各学年数名の生徒が再検査になったが、現在までの再検査においての不合格者はない。検査当日における検査不合格者は少ないが、常日頃の服装頭髪を生徒が自主的に厳守できるような指導方法や靴、防寒着等の規約についても検討していきたい。	
		・自転車交通事故の減少と自転車交通マナーを改善することを目的に、自転車点検や交通安全指導等を実施する。	4:自転車点検・交通安全指導を行い、十分な成果があった。 3:自転車点検・交通安全指導を行い、ある程度成果があった。 2:自転車点検・交通安全指導を行ったが、事故やマナーの向上につながらなかった。 1:自転車点検・交通安全指導を行う機会がなく、事故やマナーの向上につながらなかった。	3	○自転車点検や交通指導の充実を目標に指導した。大きな交通事故等はなかったが、3学期に自転車通学の生徒が一般人と接触した事故が起きた。生徒の現場での対応は良かったが、自転車保険加入の重要性を再認識させられた。全校集会等で全校生徒に事故の内容等を含め、自転車保険の重要性についても指導することが必要である。	
特活	1 生徒会を中心に全校生徒による主体的意欲的な活動の実現	・生徒会が活発に活動できるように促す ・各種学校行事で、全校生徒自らが主体的に活動できるように促す。	4:各種活動において主体的にまもって活動できた。 3:各種活動においてほぼまもって活動できた。 2:各種活動においてあまりまもって活動できなかった。 1:各種活動において全くまもって活動できなかった。 4:学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会でまとめ、全校生徒が主体的に活動できた。 3:学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会でまとめ、ある程度の生徒が主体的に活動できた。 2:学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会でまとめたが、生徒があまり主体的に活動できなかった。 1:学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会でまとめたが、生徒が全く主体的に活動できなかった。	3	○各種行事においては、生徒会が主体的に計画・運営をまもって行っている。特に生徒の意見を組み込むためのアンケートや希望調査をおこなったり、行事後の反省や生徒の意見を集約し、次の行事に生かそうとする意欲がみられた。 ○生徒会が各行事の前にアンケート等を実施し、全校生徒の意見を考慮に入れて各行事を実施した。行事終了後のアンケート調査により次年度への生徒会活動を改善していくことが望まれる。	○各種行事等については、生徒自らが主体となって良く取り組んでいると思う。 ○ボランティア活動等については、もっと商工の生徒がしているようにPRしていくことも大切だと感じる。
	2 地域社会における商工の存在意義を高めるような活動の実現	・地域に貢献する活動を探り、実施する。	4:地域に貢献する活動を、新たに全校生徒で行うことができた。 3:地域に貢献する活動を、新たに生徒会役員等一部の生徒で行うことができた。 2:地域に貢献する活動を、新たに行うことができなかった。 1:過去行った地域に貢献する活動も行うことができなかった。	3	○例年どおり大きな行事は問題なく実施している。地域社会に商工をアピールするため、文化祭の内容を検討し実行した。来年度に向け、ボランティア活動等の計画を検討していくことが必要である。	
保体	生涯にわたって健康・安全な生活の実践ができる能力の育成を目指す。	・健康診断後の受診を促すために、親師会総会、保護者会、各HRなどで積極的に呼びかける。 ・プリントによる受診勧奨を定期的に行う。	4:全体の受診率が90%以上であった。 3:全体の受診率が80%以上であった。 2:全体の受診率が50%以上であった。 1:全体の受診率が50%未満であった。	2	○全体の受診率は69%であった。学校保健安全委員会でも課題として協議した。今後も担任からの呼びかけ、保健便り等で啓発、再度受診勧奨を発行するなど、受診率の向上に努めたい。	○受診率が上がらないのは、自己管理ができていないことにつながると考えられる。自己管理の意識を高められるような取組をしていただきたい。
		・学校医や地域と連携して、各種の健康課題(歯・性・薬物・こころ等)について、生徒の実態に応じた指導を行う。	4:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んで、生徒の健康意識も高まり、実践力がついた。 3:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んだ結果、生徒の健康意識は一時的に高まったが、実践する力があまりついていない。 2:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んだ。 1:学校医、地域と連携した保健指導を計画どおり実施することができなかった。	3	○1年生を対象にした学校歯科医による保健指導や地域の外部講師を招聘して性に関する保健指導を2年生に実施した。今後、学校医や地域と連携し、生徒の実態に応じた指導につなげていきたい。	
整備	進んで掃除をし、校内の美化に努める。	・掃除にできるだけ早く取りかかるよう教員が声かけを行う。 ・時間いっぱい掃除を行うよう指導監督を徹底する。	4:全員が早く取りかかり時間内いっぱい掃除をした。 3:ほとんどの生徒が取りかかりも早く時間いっぱい掃除をした。 2:取りかかりがやや遅く時間内に掃除を終了している生徒もやや目立つ。 1:取りかかりが遅く時間内に掃除を終了している生徒が目立つ。	3	○取りかかりも早くなり、清掃活動への意識は高まってきている。	○校内、校外を含めて意欲的に美化活動に取り組んでいたが、生徒自らが自主的活動できるようになれば良いと感じる。
進路	1 学校教育全体を通して、キャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの多様な進路希望に対応した進路指導を目指す。	・個々の生徒の進路希望について、進路指導部、外部カウンセラー、学科・学年・担任の連携のもと、面接・相談を行う。	4:全学年・全員に進路面接・相談を実施することができた。 3:全学年についてほぼ進路面接・相談を実施することができた。 2:あまり進路面接・相談を実施することができなかった。 1:全く進路面接・相談を実施することができなかった。	4	○担任・科長(コース長)を中心に就職希望生徒一人ひとりと面談を行い、希望状況や企業情報の提供を行った。企業の求める生徒像や本人の適性を考慮しながら就職指導を行い、一次募集で昨年以上の内定状況となった。(96%)	○生徒一人ひとりの個に応じた的確な指導をしていただき、適切な進路実現が図られている。
	2 生徒自らがそれぞれの人生設計をし、自主的・主体的な進路選択能力を身につけさせる。	・生徒が自主的・主体的に進路を選択・決定するための能力を育成するため、必要な進路情報の提供や進路実現のための対策を行う。	4:3学年対象に求人票受付状況のメール配信や小論文指導、各種模試や公務員対策、また全校生徒へ進路だよりを発行する。 3:上記項目の4つが実施できた。 2:上記項目の3つが実施できた。 1:上記項目の実施が2つ以下であった。	3	○3年の生徒や保護者へ求人状況の情報提供として、7月1日より8月上旬までほぼ毎日求人票の受付状況をメール配信できた。また、公務員対策として1学期月2回のペースで外部講師(大原簿記、YIC)による課外授業を行い、採用試験で8名の合格者を出すことができた。さらに医療・看護系の希望者には国語科の教員を中心として小論文指導を行った。進路だよりについては、3年生の進路先が全員決定した後配布する予定である。	
		・進学希望の生徒に対し、担任・科長・コース長と連携をとりながら、入試状況の提供と指導・助言を行う。	4:該当生徒全員に情報提供を行い、指導・助言ができた。 3:該当生徒についてほぼ全員に情報提供を行い、指導・助言ができた。 2:あまり情報提供や指導・助言ができなかった。 1:全く情報提供や指導・助言ができなかった。	4	○生徒との面談や担任と情報の共有を図り、公募推薦、指定校推薦、一般入試など様々な受験方法に対応すべく、十分な情報提供や指導ができた。	
商業	1 体系的な進路指導の確立	①1年生からの公務員対策、SPI対策等を行い、意識づけを強くする。 ②2年生からの面接対策を行う。(2年生後半から履歴書、出入り指導等) ③3年生の面接内容、面接指導についての検討を行う	4:左記の3つの取り組みすべてを行い、その後の検討をすることができた。 3:左記の3つの取り組みを行った。 2:左記のうち1つ以上取り組むことができた。 1:左記の取り組みをすることができなかった。	2	○3年生の面接指導については概ね科として分担し指導できたが、1・2年生の対策については未実施である。今後計画的に対策を行ってきたい。	○3年後の将来を見ずえて、1・2年生に対して計画的に対策を講じて欲しい。
	2 授業改善	新学習指導要領に対応した授業改善、シラバスの改訂を行う。 ①全員が研究授業を行う。 ②新科目の検討会を行う。 ③検定の合格者についての分析を行う。	4:左記の3つの取り組みすべてを行い、その後の検討をすることができた。 3:左記の3つの取り組みを行った。 2:左記のうち1つ以上取り組むことができた。 1:左記の取り組みをすることができなかった。	2	○検定については1学期、2学期当初の取り組みへの分析も出来ているが、新科目の研究や研究授業について未実施である。 ○生徒にとってより良い教育課程と授業内容について検討し、実施していきたい。	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
機械	目標とした進路実現のために充実した教育活動を行う。	個別の面談を行うことにより意思の確認を行いつつ、進路について理解を深める。	4:各学年に面談指導を行い、意識を高めることができた。 3:3年生のみ面談指導を行い、意識を高めることができた。 2:一部の生徒にのみ面談指導を行った。 1:実施できなかった。	3	○個別の面談は5月に3年生全員に実施し、進路について深く考えるきっかけになったと思う。機械コース24名全員の進路が決定した。コース長による2年生の面談を行い、3年生になる直近の進路支援としている。また、実習開始前の集合時に各学年、生徒全員に意思の疎通を図ることが出来た。	○資格取得や進路実現の充実を図るため、1年次から段階をおった適切な指導に今後も取り組んでいただきたい。	B
	各種の資格取得に取り組む。	授業の内容に取り入れ、勉強の仕方についての確認を行いつつ、一人でも多くの生徒に資格を取得させる。	4:ほぼ全員の生徒が1つ以上取得した。 3:半数以上の生徒が1つ以上取得した。 2:若干名の生徒が1つ以上取得した。 1:取得できなかった。	4	○意欲的に取り組む生徒が徐々にではあるが増加しつつあり、目標を持って取り組む姿勢が見られる。ほぼ全員の生徒が1つ以上取得した。原動機の2年3学期の授業の内容に、ボイラーに関する事項を取り入れ、資格取得の一助としている。		
土木	1 土木技術者として必要な知識や社会性を養い、充実した進路決定を行う。	実習や現場見学を通じて、土木に関する興味を深めるとともに社会性の育成にも取り組む。講話や視聴覚教材を利用し、職業に対する意識を高めるとともに適正な進路について深く考えさせる。	4 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みが充実し、進路決定にも十分役立った。 3 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みを進路決定に役立てることができた。 2 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みを進路決定に役立てることがあまりできなかった。 1 実習や現場見学、講話、視聴覚教材等の取組みが十分にできなかった。	3	○一学期には2・3年生、二学期には1年生において現場見学を行った。また三学期には卒業生講話を予定している。 さらに実習や課題研究・授業を通して土木の仕事について深く学び、進路決定の参考にすることができた。土木コース14名のうち10名が建設関係に就職内定をした。(萩市役所1名含)	○今後も関係団体等と連携して専門性を高める取組を継続していただきたい。	B
	2 資格取得やコンテストを通じ、土木に関する興味や専門的知識・技術を養う。	補習等により資格に対する意識を高めるとともに土木に関するコンテストにも積極的に取り組むことで専門的知識や技術を養う。	4 資格取得やコンテストに積極的に取り組み、十分な成果を残すことができた。 3 資格取得やコンテストに積極的に取り組むことができた。 2 資格取得やコンテストへの取組みで、あまり成果が残せなかった。 1 資格取得やコンテストへの取組みが十分にできなかった。	4	○一学期はものづくりコンテスト(測量)や測量技術競技大会、二学期は製図コンテストに向けて積極的に取り組んだ。ものづくりコンテストでは中国大会で2位に入賞した。 ○さらに測量士補や土木施工管理、危険物などの資格取得に対しても計画的に指導し、土木施工管理では6名が合格者した。		
電気	1 ものづくりの推進	・将来のスペシャリスト育成事業、若年者ものづくり人材育成事業等を活用し、産業界の熟練技術者から指導・助言を頂き、ものづくりコンテストおよび技能士(技能検定)への積極的な取り組みを図る。	ものづくりコンテストの成績・技能士の合格率 4 優勝1、入賞1・100% 3 入賞2・70%以上 2 入賞1・50%以上 1 参加0・50%未満	2	○未来想像チャレンジ事業の活用により、マイコンカー講習会を実施するなど、技術向上を図った。マイコンカーは、昨年より1秒タイムアップし、全国大会でも24位と過去最高の順位となり、講習会の成果が出せた。 ○ものづくり大会、技能士については、低調な結果であった。取組み時期を早くし、技術・技能を早めに身につけさせたい。	○評価基準の設定が若干高いように感じる。 ○資格取得等に向けた取組については、1年次からの計画的・組織的な指導を行っていただきたい。	C
	2 資格取得指導の充実	・検定や資格試験への積極的な取り組みと合格率アップを目指し、ジュニアマイスターの取得数を増やす。	ジュニアマイスターポイントの合計 4 500点以上 3 400点以上 2 300点以上 1 300点未満	2	○316点(1年生 158点、2年生 73点、3年生 85点) ○昨年度と比べると、合計が76ポイント低い。特に2、3年生の資格取得が低かった。難易度の高い資格にチャレンジし、合格するために生徒自身の取り組み姿勢、意識の強化を図りたい。		
建築	1 建築に対する興味を深め、自己の能力や適性に合った進路選択ができるよう支援する。	・現場見学・講話等の体験を通じ興味関心を持たせ、自己の適性に合った進路選択を行う。	4:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等により興味関心を持たせることが十分にできた。 3:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等により興味関心を持たせることがほぼできた。 2:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等が十分に実施できなかった。 1:現場見学・視聴覚教材を用いた講話等が実施できなかった。	4	○1学期中に、2・3年生に対し現場見学を実施した。また、3年生に対して1回目の林業インターンシップ(基礎講座)を実施した。 ○2学期には3年生に対し2回目の林業インターンシップ(実践講座)、2年生には『重要文化財「大照院」保存修理工事』の現場見学を実施した。 ○3学期には工業科3年生に対し卒業生講話を実施した。1年生に対し現場見学を実施予定である。	○関係団体と連携した様々な地域貢献活動については非常に評価できる。 ○学校のブログ等にも良く載せていただいているが、更に積極的にPRと継続的な周知の方法も考えられると良い。	B
	2 専門性を活かし、地元の発展に協力することにより地域に貢献する。	・制作物を展示・販売・寄贈等を行うことにより萩商工のPRをするとともに、山口県や萩市の企画に協力しボランティア活動を行う。	4:実習等による作品制作により、山口県や萩市の企画に協力・展示・寄贈を5件以上行い学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 3:実習等による作品制作により、山口県や萩市の企画に協力・展示・寄贈3件以上行い学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 2:実習等による作品を展示・販売し学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 1:実習等による作品を展示・販売し学校のPR、ボランティアを行わず地域に貢献できなかった。	4	○昨年優秀賞を受賞した「第23回世界スカウトジャンボリー」における歓迎作品の募集審査結果本校応募作品「木目を生かした休憩所と受付」を制作し現地に設置し、実際に活用頂いた。また、期間終了後「休憩所」は萩市に寄贈された。 ○道の駅「萩・さんさん三見」にて「日本一精度の高いびわの種飛ばし大会2015」を開催した。ものづくりフェスタ2015において活動をパネルで紹介もおこなった。 ○萩西中学校、佐々並小学校、白水小学校に対し技術ボランティアをおこなった。 ○萩商工祭での木工作品の販売も盛況であった。		
1年	1 基本的な生活習慣を確立させ、高校生活に適応するための指導を推進する。	・個人面談や保護者会を実施することにより、生徒の状況や問題を把握し、それに応じた支援や生活指導を行う。	4:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることが十分達成できた。 3:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることがほぼ達成できた。 2:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることがあまりできなかった。 1:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をすることができなかった。	3	○全員の生徒、保護者と面談を行い、生徒の状況を把握することができた。問題解決に向け教育相談や生徒指導部と連携をとって対応している。現在も不登校等の問題を抱えた生徒がおり、継続的な指導・支援が必要である。	○入学時と現時点では、生徒の意識も変化していると感じられる。面談なども学年全体で計画的に取り組むなど、生徒の意識向上に向けた取組の充実を図っていただきたい。	B
	2 基礎学力向上のための指導を充実させ、基礎的資格を取得させる。	・3年後の進路を見据えた指導の一貫として、目標をもって学習に取り組ませるとともに、1学年で受験可能な資格を計画的な指導により取得させる。	4:目標をもって学習に取り組む、1年間で90%以上の生徒が資格を取得した。 3:目標をもって学習に取り組む、1年間で70%以上の生徒が資格を取得した。 2:ほぼ目標をもって学習に取り組む、1年間で50%以上の生徒が資格を取得した。 1:目標をもって学習に取り組まず、1年間で50%未満の生徒が資格を取得した。	4	○約80%の生徒が学習に目標をもって取り組めており、90%以上の生徒が資格を取得した。今後、進路意識を更に高め、進路実現に向けた目標設定や資格取得ができるよう、指導や情報提供をしていきたい。		
2年	1 進路を見据えた上で、学校の中心学年として自覚を持ち、高校生活に対し意欲的に取り組む姿勢を育てる。	・個人面談と保護者会等の実施により、適性な進路・目標の設定、進路実現に向けて準備すべきこと、期日を決めてやるべきことなどのアドバイスを。同時に、学習面・生活面等についてもきめ細やかな指導を行う。	4:年2回以上の個人面談で生徒の状況と問題を的確に把握し、支援することが十分に達成できた。 3:年1回以上の個人面談で生徒の状況と問題を把握し、支援することがほぼ達成できた。 2:年1回は面談を行ったが生徒の状況と問題を十分に把握できず、支援することがあまりできなかった。 1:面談を実施できず、生徒の状況と問題を把握することも、支援することもできなかった。	3	○ほとんどの生徒には面談を実施し、生徒の状況(進路を含む)を把握することができた。今後、進路に向けてより一層の進路面談を実施して行きたい。	○集合時間を守るなど、集団行動できていることについて評価できる。 ○3年生となるにあたり、目標を持って計画的に取り組むなど、生徒の意識向上に向けた取組の充実を図っていただきたい。	B
	2 基本的な生活習慣を確立させる。	・期日と時間を強く意識させる。提出物を期日までに提出するように指導する。また、時間を厳守するよう指導する。 ・修学旅行、学年行事等の集団行動時の場に応じた行動、時間を意識した行動がとれるように指導を行う。	4:100%時間・期日を守り、信頼される行動がとれた。 3:ほぼ、時間・期日を守り、信頼される行動がとれた。 2:時間・期日を守れず、信頼される行動がとれないことがよくあった。 1:ほとんど時間を守れず、信頼を失うような行動が多かった。	4	○授業(移動教室なども含めて)は、チャイムと同時に着席しており、ほぼ時間を意識して行動することができた。提出物は期日までに全員提出は難しいが、遅れる場合の報告は必ずするように指導しており、それが実施できている。		

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
3年	生徒の希望・適性・能力に応じた進路指導を行う。	・生徒全員に複数回の進路面談・相談を行い、生徒の希望・適性を把握した上で、一人一人に適切な指導を行う。	4: 全員に2回以上、面談・相談を実施することができた。 3: 全員に1回は、面談・相談を実施することができた。 2: あまり面談・相談を実施することができなかった。 1: ほとんど面談・相談を実施することができなかった。	4	○生徒全員に2回は面談・相談を実施することができ、生徒の希望・適性を把握し適切な指導を行った。	○生徒一人ひとりの進路実現を図ることができていた。こうした取組が次年度の後輩に受け継がれるよう、情報の共有化等に努めて欲しい。	A
		・生徒・保護者に対し、1学期中に進路資料を提供する。	4: 全員に資料が提供できた。 3: 希望者には、資料が提供できた。 2: あまり資料の提供ができなかった。 1: ほとんど資料の提供ができなかった。	4	○生徒保護者に対し、進路資料を提供することができた。		
業務改善	学校の組織等・校務分掌の業務見直し	・各分掌内の業務を整理し、円滑な校務の運営を図る。	4: 各分掌内の業務を整理し効率化も図られ、分掌運営が十分にできた。 3: 各分掌内の業務を整理し、業務の見直しを検討することができた。 2: 各分掌内の業務を整理するにとどまった。 1: 各分掌業務のスムーズな運営にとどまった。	2	○校務分掌の再編(7分掌→5分掌)に伴い、年度当初、分掌業務の連携が上手くいかず、仕事が滞る場面も見られ、分掌主任を中心に係の仕事内容について調整を図った。今後は、各種委員会等を有効に活用するなど、各分掌内の係の業務について見直しを図り、組織力強化を図っていきたい。	○校務の平準化や校務内容の見直しについて、改善を図っていただきたい。 ○先生方の健康管理に十分留意しながら、生徒の指導に頑張ってください。	C
	各種会議等の時間の短縮と効率化	・会議や校内研修会等の精選及び時間短縮に向けた事前準備の徹底を図る。 ・伝達事項、報告事項についてはできるだけ職員朝礼等で行う。	3: すべての会議等が勤務時間内に終了した。 2: ほとんどの会議等が勤務時間内に終了した。 1: 職員朝礼、職員会議ともに時間を越えることが多かった。	3	○朝礼伝達票の活用など職員朝礼を有効に使い、各種会議の時間短縮を図ることは、概ねできている。		
	勤務状況・年休取得の促進	・年休・代休を取得を呼びかける。 ・業務時間記録表をもとに健康管理を呼びかける。 ・ゆとりある職場環境づくりに努める。	4: 教職員の8割以上が、年休取得率50%以上であった。 3: 教職員の6割以上が、年休取得率50%以上であった。 2: 教職員の4割以上が、年休取得率50%以上であった。 1: 教職員の2割以上が、年休取得率50%以上であった。	4	○部活動や資格取得の補習など忙しい状況にあるものの、夏期厚生休暇は9割近い取得率を示しており、年休や代休については適正に取得されている。今後とも、超過勤務となっている先生方の健康管理に十分な配慮し、業務の平準化を図っていきたい。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
<p>①親師会活動については、昨年と同程度の参加率を図ることができた。親師会総会については、再集會も実施したが思うように出席率が上がらなかった。今後は、内容の検討を図るとともに、保護者への情報発信にも力を入れ、親師会活動の更なる活性化を図ってきたい。</p> <p>②朝読書の実践も4年目となり、落ち着いた雰囲気の中で授業に望んでいる。また、読書習慣の身に付いた生徒も増えていると感じられる。</p> <p>③家庭学習の時間については、「全くしていない」が本校生徒は26.8%(山口県全体では18.3%)と非常に低く、「家庭学習時間が1時間未満」も52.6%(山口県全体では28.3%)と高い数値を示しており、学習習慣の確立に向けた取組について、保護者と連携しながら、今後、取り組んでいくことが必要である。</p> <p>④校内では比較的落ち着いた態度で学校生活を送っているが、校外において服装、頭髪、生活態度等の乱れが気になる例も見られる。校内はもちろん校外においての規範意識の醸成を図って行くことが重要である。自転車事故も何例か起こっており、自転車のマナーも併せて生徒指導により一層力を入れていく必要がある。</p> <p>⑤いじめ等の問題については、未然防止はもちろん早期発見・早期対応につとめた。また、精神的に不安定な生徒についても、教育相談、スクールカウンセラー等と連携した対応ができた。</p> <p>⑥生徒会の役員を中心とした菟往還清掃活動や建築コースの技術ボランティアなど、多くの地域貢献活動を行っている。また、萩LOVEハイスクールや萩駅のイルミネフェスタなど地域と連携した取組にも積極的に関わるとともに、様々な活動を活発に実施することができた。</p> <p>⑦部活動については各部とも熱心に練習に取り組み、多くの部が、全国大会、中国大会に出場した。なお、生徒数の減少に伴い、部活動のあり方については検討する必要がある。</p> <p>⑧キャリア教育年間計画にそって進路ガイダンス、進路講話、面接指導等実施した。また、1年次におけるインターンシップについては、商業科と工業科が連携を図って11月の同時実施とした。今後、さらなる連携を深め、段階的・組織的なキャリア教育の推進を図っていくことが大切である。</p> <p>⑨保健室を中心として、生徒、教職員の健康指導を実施するとともに、インフルエンザ等の感染症にも関係機関と連携をとりながら迅速に対応できている。なお、教職員の定期健康診断による再検査について、受診率改善のため、積極的な声かけ等により健康の保持増進を奨めていく必要がある。</p> <p>⑩学校情報の公開と保護者等への周知のために、HP・Twitterやブログ、分掌だより、学級通信等を通して行っている。特に学校の情報を効果的に発信するため、メーリングリストの普及に努め、登録率100%を目指したい。</p> <p>⑪業務改善では、校務分掌の再編を図り、現状と照らして規定の改正等に着手した。今後は、分掌内業務を見直すなど、業務の平準化を図り、教職員の多忙感の解消を進めていきたい。</p> <p>⑫年休の取得については、多くの教員が適正に取得されているが、部活動などについて積極的に休養日を設定するなど、生徒も教員も生活バランスを考えた活動を推進する必要がある。</p>	

7 次年度への改善策	
<p>◆地域の協働イベントやボランティア活動等への積極的なかかわりを通して、郷土愛を育むとともに、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身につける教育活動をより一層推進する。</p> <p>◆校訓である「質実剛健」「至誠一貫」「知行合一」のもと、北浦における専門学校としての新たな歴史と伝統を育んでいくスペシャリスト人材の育成を図るとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向けて学校として組織的に取り組む。</p> <p>◆「チャレンジ目標」・「魅力創出」の実践を通して、基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、検定・資格取得、部活動や学校行事等の活性化を図り、豊かな人間性を育む。</p> <p>【学習指導】</p> <p>○「わかる授業」の実践を通して、基礎学力の向上を目指すとともに、家庭における学習習慣の定着を図る。</p> <p>○公開授業やアクティブラーニングの実践など、校内研修を積極的に推進し、資質の向上を図る。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○多様化する生徒の実態を的確に把握し、朝の正門指導や授業・実習等での教科指導も活用しながら、身だしなみや挨拶など、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>○情報モラルの低下による「いじめ問題」や自転車マナーを含む「交通ルール遵守」等について、未然防止を基本とした積極的な生徒指導の推進を図る。</p> <p>○地域貢献活動や各種ボランティア活動等への積極的な参加や部活動の活性化などを通して、「豊かな心」を育むための実践活動の充実を図る。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○インターンシップの充実など、早い段階での職業観・勤労観の育成を図り、計画的キャリアガイダンスを実践し、生徒が主体的に進路選択・決定する能力を育成する。</p> <p>【保健体育】</p> <p>○保護者・学校医・部活動顧問とも連携し、健康診断後の受診率向上を図るなど、生涯にわたって健康・安全な生活ができる能力を育成する。</p> <p>【業務改善】</p> <p>○組織力アップと多忙感解消のため、業務の平準化およびスリム化を推進するとともに、OJTや校内研修等の充実を図り、学校全体の協働体制の構築を目指す。</p>	